

平成27年度全国高体連自転車競技専門部

第108回全国専門委員長会 次第

期 日 平成28年2月13日(土)・14日(日)

会 場 東京都 成城高等学校 会議室

次 第

- 1 司会進行 塚崎 邦嗣
- 2 出席者 出席 43名 欠席委任状 3名
- 3 部長挨拶 北村 泰生
日頃よりいろいろご支援ご指導いただきありがとうございます。
近畿インターハイ大変お世話になりありがとうございます。
一ヶ月後には選抜大会が開催されます。
審議事項がたくさんありますが宜しくお願いします。

議事録署名人 静岡県 山本 明弘・京都府 中野 哲治

- 4 議長選出 第26条3項により部長が担当

5 審議事項

- (1) 平成27年度事業報告(案)について (事務局)
別紙参照
北信越ブロック合宿 27年8月28日～30日追記
近畿ブロック合宿 27年8月28日～30日変更
審議後承認
- (2) 平成27年度収支中間決算(案)について (事務局)
別紙参照
審議後承認
- (3) 平成28年度事業計画(案)について (事務局)
別紙参照
北海道ブロック大会
トラック 6月17日18日 函館競輪場
ロード 6月19日 遠軽町
九州ブロック大会
トラック 6月18日～20日 熊本競輪場
ロード 6月21日 大分オートポリス
東海ブロック合宿
8月26日～28日 岐阜県
審議後承認
- (4) 平成28年度収支予算(案)について (事務局)
別紙参照
審議後承認
- (5) 総務部会提案事項について (総務部会)

別紙参照

- 提案1 選抜大会、高校総体ロードレースのスタート方法について
シード選手、開催県選手、県別でスタート位置を決める
県別は、2月の委員長会議において抽選により決定する。
- 提案2 全国総体参加人数枠数の見直しについて
別紙参照
登録校数で参加人数枠数を比例配分により変更する。
- 提案3 全国高校総体、~~全国高校選抜~~のロードレースの得点について
学校対抗ロードレースの得点を1～20位まで得点を与える。
- 提案4 平成32年度全国高校総体開催地について
別紙参照
平成32年8月10日～20日に実施
開催地未定 専門部からは長野県に依頼している
- 提案5 全国高校総体女子種目正式種目へ申請について
<理事長より>
別紙参照
28年度に全国高体連に申請する。
新規加盟の基本ベース
・開催年度の4年前の4月から8月の間に申請
・都道府県高体連への加盟が30以上、40都道府県以上の活動がある。
・インターハイ参加人数を男子450名、女子50名にして開催日程変更もなく経費の増額もない。
28年度は何としても40都道府県以上の登録を達成し、申請をしていきたい。
<競技運営部会より>
別紙参照
参加人数 50名
選考方法 都道府県大会、ブロック大会両方に500mTT、2kmIPに出場。
実施種目 500mTT、ケイリン、2kmIP、ポイントレース
ロードレース
- 提案6 自転車競技の安全対策について
今年度あるチームの1年生部員がロード練習中下り坂で落車し、脊髄損傷になった問題から提案に至る。
・安全走行ガイドの作成
・安全マニュアルの作成
・事故発生後の報告の義務化
報告用様式データをHPからダウンロードする。
・大会危機管理マニュアルの作成
<島田先生より>
加害者になった時の対応マニュアルも必要ではないか。
<多田先生より>
先日のお阪で起きた事件は一般の高校生が加害者になったようだ。
<総務部長より>
安全マニュアルに入れていくようにしたい。

提案7 表彰規定について

別紙参照

28年2月13日に制定、施行

表彰については、27年度の表彰対象者を理事で調べ決定し、27年度選抜大会開会式後に実施する。

提案8 広報部の設立について

ホームページの管理、記録、写真等の管理・整理を行う部会を設立。

28年度思案、準備、29年度より活動実施予定。

審議後承認

(6) 競技運営部会提案事項について

(競技運営部会)

別紙参照

(1) 電子計時記録と手動計時記録の補正值採用について

フライングスタートは採用なし

スタンディングスタートは0.30秒の補正值を採用する。

(2) 平成28年度全国高校総体制限タイム見直しについて

(手動計時)

1 kmTT 1 '10 "960 (1 '10 "660)

2 kmIP 3 '42 "040 (3 '41 "740)

TP 4 '41 "110 (4 '40 "810)

TSP 51 "330 (51" 030) 250m

1 '08 "500 (1' 08" 200) 333m

1 '22 "560 (1' 22" 260) 400m

1 '43 "760 (1' 43" 460) 500m

<岡山県興陽高校>

毎年制限タイムが上がっていくと生徒の意欲が失われていく。

<宮城県東北高校>

東北ブロックでは気候の関係で練習時間が限られてくるため、ブロック大会までに制限タイムをクリアすることが難しい。

<愛知県桜丘高校>

単年度の調査でなく、長期的なタイム更新状況を鑑みて制限タイムを考えていは？

<理事長>

12月の理事会でも今回のタイム制限は厳しいとの意見があったが、インターハイの日程は4日間に収めていくことが必要。

女子の種目が入ってくるので、男子の参加人数の制限が必要である。

北海道・東北 止むを得ない。

関東 猶予が欲しい。

東海 仕方がない。

手動計時が不利になるので、電子計時が使えるような予算立てをお願いしたい。

北信越 仕方がない。

近畿	質の高さの維持のため受け入れざるを得ない。
中国	2年くらいの猶予が欲しい。 運営する側からすると参加人数の制限も仕方がない。
四国	仕方がない。
九州	仕方がない。

反対意見がなかったため、上記のような改定を行う。

- (3) 28年度全国高校選抜大会の申し込み時の申請タイムについて
 原案 インターハイに準じた方式を採用する。
 対象種目 1kmTT、3kmIP、500mTT、2kmIP
 対象大会 各ブロック、地域、都道府県大会

審議後承認

- (7) 強化育成部会提案事項について (強化育成部会)
 別紙参照

- 平成27年度全国高体連女子トラック合宿
 - 平成28年3月30日(水)～4月2日(土)
 - サイクルスポーツセンター
 - 負担金 20,000円(交通費、宿泊費はJKAより補助がある。)
 - これまでの競技成績から30名を選出し、ファックスで参加の意思確認をする。
- チョンジュ MBC 国際ロードレース
 - 2016年5月16日(月)～20日(金) 5日間 5ステージ
 - スタッフ3名 選手6名
 - 自己負担金実費の1/4で参加出来る(JKAより3/4の補助がある。)
 - 希望調査をしたい。

審議後承認

- (8) 平成28年度全国高校総合体育大会について
 別紙参照

- (ア) 実施要項等について (鳥取県・広島県実行委員会)
 (イ) 競技日程について
- 閉会式を30分遅らせた。
 - トラック、ロードの公式連取を設けている。
 - 競技方法(ロードレースの順位得点)を変更している。
 - 参加制限数を変更している。
 - 女子公開競技の申込書は高体連ホームページからダウンロードした様式で申込む。

会場について

倉吉競技場

- 駐車場を十分確保している。
- 保護者駐車場は近隣の小学校グラウンド、シャトルバスあり。
- 保管庫は選手村テント。
- 発電機使用可能。
- 宿舍までの移動は30～40分かかる。

広島中央森林公園

- スタートを1.6km下げた。
- 公式練習日以外は管理センターで受付して下見可能である。
- 駐車料金がかかる。

・宿泊は尾道市、三原市で準備予定。

(9) その他

6 報告事項

(1) 平成27年度全国高等学校選抜自転車競技大会について

(ア) 大会参加案内について

(総務部会)

- ・駐車場を十分確保している。
- ・詳しくはホームページに随時アップしていく。

(イ) 大会特別規則他について

(競技運営部会)

- ・ホームページに随時アップしていく。
- ・梅丹本舗にゼッケンスponsorになっていただく。
商品売上につながっていないので委員長に購入案内をさせてもらう。
- ・競技日程の入れ替えを行っているので確認をお願いしたい。
- ・ケイリンの勝ち上がりの変更があるので確認していただきたい。
- ・審判長を和歌山県岡本先生に依頼している。
- ・スタート前に安全指導を実施予定。

(2) 日本自転車競技連盟諸会議の報告について

(理事長)

- ・オリンピックが近づいてきているので JKA の補助金が 3/4 になった。
- ・補助対象事業：男子は選抜大会、トラック全国合宿、チョンジュ MBC
女子は公開競技、女子トラック合宿
- ・今後は、専門部から直接 JKA に直接申請、報告するような流れを作っていく。

(3) 全国高等学校体育連盟諸会議の報告について

(理事長)

- ・32年インターハイ問題
- ・体罰の根絶。

(4) 日韓対抗学生自転車競技大会について

(理事長)

- ・27年度の報告は強化育成部会からしていただく。
- ・28年度はヤマダグリーンドーム前橋で実施予定
- ・学連と高体連の考え方が大きく違うので共催を今年度までとしたい。
- ・29年度からは高体連のみで日韓対抗実施に向けて検討していく

(5) 各専門部会より

総務部会

- ・救急搬送以上の事故報告をお願いしたい。
- ・31年以降の選抜大会開催地募集について。
2～3年間の実施が条件。
経費は2,000万円であるが、自己負担500万円で済む。
スポンサー料、参加料があれば自己負担金は更に少なくて済む。
- ・選抜大会、インターハイの監督とチームサポートは加盟校登録していること。

競技運営部会

別紙参照

活動報告

- ・部会員図員について 東京都立工芸高校 阿部貴宏先生にお願いした。
- ・東北ブロックからもお願いしたい。

大阪インターハイについて<審判長鹿町工業高校馬場先生>

- ・男女共にレベルの向上が感じられた

加盟校アンケート結果について<鹿町工業高校馬場先生>

別紙参照

- ・ここ5年間の集計をしてみると、自転車ブームの影響で競技者が増えつつある。その一方で安全対策やルールの指導が更に必要になってきている。
- ・国内トラックレースは、JCFの規則改定がない限り、サイズ・重量の規定内であれば高体連では使用可とする。
- ・初心者に対する安全指導についても継続して取り組む。

強化育成部会

別紙参照

ジャパンカップ2015・ホープフルクリテリウム高体連推薦選手について

- ・今年度急遽準備、参加した。補助金あり。

2015年日韓対抗

- ・事前合宿を奈良競輪場で実施
- ・短距離種目で韓国選手に力負けしていた。
- ・チーム競技においても短距離種目で韓国に力負けした。
- ・結果については高体連ホームページに掲載している。

平成27年度全国高体連トラック合宿について

- ・JCF合宿との並行開催であり制限が多少ある。
- ・結果については高体連ホームページに掲載している。

(6) その他

賛助会費35都道府県より協力いただいている。